



11月14日は世界糖尿病デー 理学療法士 足川

●世界糖尿病デーとは

2022年11月12日の日本海新聞でも特集されていましたが、毎年11月14日は『世界糖尿病デー』です。また11月14日を含む一週間を『全国糖尿病週間』としております。

世界糖尿病デーは、糖尿病の脅威が世界的に拡大しているのを受け、世界規模で糖尿病に対する注意を喚起しようと、国際糖尿病連合（IDF）と世界保健機関（WHO）によって1991年に開始され、2007年には国連の公式の日になりました。この11月14日は、1922年にチャールズ・ベストと共にインスリンを発見したフレデリック・バンティング（カナダ/1891-1941）の誕生日にあたり、糖尿病治療に画期的な発見に敬意を表してこの日を糖尿病デーとして顕彰しています。昨年

（2021年）はインスリンの発見から100年目という記念すべき年でした。



●我が国の現状

日本では5人に一人が糖尿病疾患および予備軍の人がいると言われております。糖尿病は早期発見・早期治療が重要ですが、痛みなどの自覚症状もほとんどなく、約半数の方が治療を受けていないという状況です。また、糖尿病に対する差別や偏見などもあり、受診をためらう患者さんもおられます。世界糖尿病デーや全国糖尿病週間などの話題が、ご自身やご家族、その他の大切な人と共に糖尿病の治療や予防について考え、また社会全体で糖尿病に対する差別や偏見の解消に向けた理解を深めるきっかけになればと思います。



●世界糖尿病デーのシンボルマークや行事

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」がシンボルマークとして用いられ、当日は世界各地で著明な建造物をブルーにライトアップするなどの行事などが行われます。鳥取県内では「円形劇場くらよしフィギュアミュージアム」が青くライトアップされ、YouTubeでもライブ配信されました。



world diabetes day
14 November

シンボルマーク
『ブルーサークル』



円形劇場くらよし
フィギュアミュージアム

